

## 【記述式試験と脳のトレーニングの関係】

技術士二次試験は記述式試験です。記述式試験とは、問題を読み解答を考えそれを答案用紙に書く試験です。つまり、記述式試験とは、解答を考えそれを書く試験です。試験の合格には、「解答を考えそれを書くこと」のレベルアップを図るためのトレーニングが必要です。

記述式試験では、「解答を考えそれを書く」に対して頭の中で以下の作業を行います。

- ①問題を読み内容を理解し「解答することは何か」と確認する。
- ②頭の中にある様々な技術や知識から合格点が取れる解答を探す。
- ③所定の文字数以内で書くため頭の中で解答をまとめる。
- ④「主語と述語の対応を考えて書く」など文法のこと、言葉の表現方法あるいは漢字の書き方などを考えながら頭の中でまとめた解答を所定の時間内で答案用紙に書く。

「解答を考えそれを書くこと」のレベルアップを図るためのトレーニングとは、必須科目では2時間、選択科目では3時間半の計5時間半、これらの複雑な作業をしている脳への負担を軽減するためのトレーニングです。つまり、レベルアップを図るためのトレーニングとは、脳がこれらの作業に慣れるための脳のトレーニングです。

①～④は、受験勉強の中で脳のトレーニングができます。脳がこれらの作業に慣れるために予想問題や過去問を解くことが脳のトレーニングです。

③と④は、日常業務の中で技術文書を書くときに脳のトレーニングができます。日常業務の中で書く技術文書に対して、技術文書の文字数が制限されたり技術文書を書くときにその時間が制限されたりすることは少ないと思います。しかし、日常業務の中で書く技術文書に対しても、その中で書く内容を頭の中でまとめたり、文法、言葉の表現方法あるいは漢字の書き方などを考えながら頭の中でまとめた内容を書いたりします。日常業務の中で技術文書を書くときにも脳のトレーニングができます。このように考えると、記述式試験では日常業務の中でも受験勉強ができることがわかります。

また、③での脳のトレーニングに関して、受験勉強の中で「解答の要点と要点の説明」を考えたり、日常業務の中で「内容の要点と要点の説明」を考えたりすると「“1分で理解できる解答”の書き方<sup>注)</sup>」のトレーニングができます。

注) : 「1分で理解できる解答」の書き方」の内容については、弊社のウェブサイトの「1分で理解できる解答」の書き方」を参照してください。